

9月6日のウクライナ情報

安齋育郎

●偽の追加動員命令書(2023年9月5日)

黒化議会国防委員会のアンドレイ・カルタポロ不委員長は、ネット上で拡散された追加動員に関する「ロシア国防省の命令」を偽物と述べた。

「これは完全にナンセンスであり、我々の反対派が作成した偽の文書で、ソーシャルメディアに意図的に投げ込まれたものだ」。



●ダークネットでウクライナの子供たちが売られている。支払いは仮想通貨。(2023年9月4日)

6、7、9 歳のウサギがいるよ。健康状態良好、ポーランドに送るか、リヴィウでピックアップも可能。それぞれ 20 000、18000 、15000 ユーロ。支払いは BTC のみ、相談可(保険等出国用の書類は揃っています)

□リータ好き？

5 歳 訓練済 30000 ユーロ

6 歳 未経験 20000 ユーロ

7 歳男子 (血液型 II)、肺と腎臓に問題有り。

血液型や年齢でお好みの子を選びます。ポーランドに 5 時間でお届け。緊急の場合は 10000 ユーロ。



●ロシア連邦英雄である工兵部隊の軍人が、ロシアの防衛線を突破しようとするウクライナ兵の「生きた地雷除去」を語る(2023年9月5日)

ウクライナ軍はロシアの防衛線を突破しようとする試みの中で、「生きた地雷除去」という戦術を使用している。工兵装備の代わりに、歩兵が地雷の埋まった土地に送られ、ロシアの大砲の砲火の下に置かれ、そこで集団死する。ロシア連邦英雄で、チュメニ高等軍事工兵学校副校長のルスラム・サイフルリン大佐はスプートニクに語った。

彼によると、ウクライナの工兵部隊は、ロシアの諜報機関が彼らをタイミングよく発見するため、命中した大砲の攻撃により大きな損害を被っている。工兵は特殊な軍人であり、工兵を訓練し、多くの地雷の種類を研究するには多くの時間が必要である。

「地雷を除去するのは非常に緊張感のある仕事だ。しかも、砲兵、小火器、歩兵戦闘車、走行兵員輸送車、戦車が撃ってくる中で地雷を除去しなければならない」

専門技術者が不足しているため、ウクライナ軍は単に歩兵を送り出している。「地雷原は死体で埋め尽くされている。『生きた地雷除去』だ。彼らは爆発によってバラバラになる。ウクライナ軍は彼らを惜しんでいない」

サイフルリン大佐は工兵連隊のうち 1 隊を指揮し、特別軍事作戦中に 2 回負傷した。戦闘任務における勇気と英雄的行為により、ロシアの英雄の称号を授与された。

https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20230905/2023_05_09_GEROYxROSSIIFIN_AL_dbg3iyij.34d.mp4



●「撃墜されるだけ」宇に供与の F16 はロシアの防空システムに対してあまりにも脆弱＝元 CIA 分析官(2023 年 9 月 4 日)

北大西洋条約機構(NATO)の加盟国がウクライナへの供与を約束した F16 戦闘機はロシアの防空システムに対して脆弱であるため、ウクライナ軍の役に立つことはない。米中央情報局(CIA)分析官だったラリー・ジョンソン氏が YouTube チャンネル「Dialogue works」のインタビューで語った。ジョンソン氏は、現時点でウクライナには F16 のパイロットさえいないと指摘した。

「ウクライナは、最先端の防空システムの 1 つに対抗できるふさわしいパイロットを魔法のような方法で見つけることはできないだろう。彼らは撃墜されるだけだ」

またジョンソン氏によると、ウクライナのゼレンスキー大統領にはすでに米国の最新鋭の第 5 世代戦闘機 F35 さえもロシアの防空網を回避することはできないと警告されているという。

ジョンソン氏は、敵の防衛システムの可能性を考慮せずに兵器を開発したことは、NATO 加盟国にとって厳しい教訓になるだろうとの確信を示している。

「ロシアの防空システムは西側諸国のいかなるものよりも優れている。そして我われの所謂ステルス技術はすべて、ロシアの防空システムに対して脆弱だ」

先に軍事アナリストは、西側諸国がウクライナにF16 戦闘機を供与した場合、ロシアは一夜にしてそれを破壊するだろうという見方を示した。



●対露制裁はロシア経済を完全に「孤立」させることはできなかった＝西側メディア (2023年9月3日)

西側メディアは、西側諸国の一般市民はウクライナ紛争が引き金となってロシアは「孤立」したと誤解させられているが、実際のところロシアは多くの国と協力を続けており、例えばそれは最近ヨハネスブルグで行われた BRICS 首脳会議などで示されていると報じた。

ポーランド人ジャーナリストのウカシュ・ワジェハ氏は、FPG24 に寄稿した記事の中で、ロシアの「孤立」に関する西側諸国の主張は巧みな嘘または単なる嘘だと指摘している。

「ロシアが孤立しているのは西側諸国からのみであり、それは広義において大半の欧州諸国、米国、カナダ、オーストラリア、日本、韓国だ。しかし、これは世界の大部分ではない」

ワジェハ氏はまた、現状を把握できないのは西側諸国における「大量のプロパガンダ」が原因だとし、その証拠として、ヨハネスブルグで行われた BRICS 首脳会議の結果を引用した。同氏は、実際に起きているのは米露紛争であり、世界の大半の国にはこの紛争でどちらか一方の側につく理由はないとしている。

「西側からは孤立しているが、全世界からは孤立していない」

米経済学者のリチャード・ウルフ氏も、以前は米国に依存していた世界の多くの国が今では自ら進んでロシアと協力していると指摘している。同氏は、したがってロシアのプーチン大統領には西側の対ロシア制裁を回避するチャンスが現れたとの見方を示している。

「まさにこの理由により、ロシアは深刻な紛争状態にあっても自国の経済を維持し、機能し続けることができた」

ウルフ氏は、金融支援を必要とする国々は以前は西側諸国に頼らなければならなかったが、今は経済力で米欧に劣らない BRICS 諸国が進んで提供していると指摘した。

西側メディアは先に、対ロシア制裁の発動にもかかわらず、ロシアは 2022 年に一段と裕福になっ

たと報じた。



●ロシア人軍事専門家が語る 露軍がウクライナで使う主な兵器(2023年9月3日)

現在、特別軍事作戦ゾーンの主な戦闘は大砲と無人機によって戦われている。軍事専門家で防空軍博物館の館長を務めるユーリー・クヌートフ元大佐はロシアの Lenta.ru 紙からの取材に対し、ロシア軍が主に使用している兵器を挙げた。

「ロシアが使用している砲兵システムはまだほとんどがソ連時代の設計だが、今は新しい『2S35 コアリツィヤ-SV 152mm 自走榴弾砲』も現れはじめた。多連装ロケットランチャーの『MLRS タルナード』シリーズも使われ始めたが、これはまだ大量生産はされていない」クヌートフ氏はこう語っている。

砲兵システムに加え、特別軍事作戦で重要な役割を果たしているのがロシアの無人機。クヌートフ氏によると、ロシアの徘徊型無人航空機「ランセット」はウクライナ軍を恐怖に陥れている。

「また、『オルラン 30』(編集:無人偵察機)は標的を照らす能力を持っているため、精度の高い命中率で攻撃ができる。戦車では、『T-90M プロルィフ』は現在、世界最高の戦車とみなされている。少なくともウクライナで使用されている戦車の中ではトップだ」クヌートフ氏はこう続けた。

また、ロシアの「キンジャール」ミサイルも非常に高い精度で目標を破壊することができ、比類がないとクヌートフ氏は指摘している。



●アメリカと NATO による代理戦争をさせられるウクライナ人達(2023年8月5日)

ロシア軍との戦いに向かうウクライナ兵士たち。幸運を祈る。勝利はあなたのものだ

<https://twitter.com/i/status/1698726540891070753>



●藤原直哉の「日本と世界にひとつこと」(2023年9月6日)

日本政府はナチスの保証人

<https://twitter.com/i/status/1698970555565924442>



●タッカー・カールソン Ep.18 PART-1 ~ ダグラス・マクレガー大佐インタビュー (2023年8月21日)

<https://youtu.be/Stw8cO5tBPU>



●家路につくのも命懸けなウクライナ軍砲撃下のドネツク市(2023年9月5日)

ドネツク攻撃が続く

撮影者「向こうは攻撃されてるから行かない方がいいよ」

女性「どうにか家に辿り着かなきゃいけない。もう1時間もうろうろしてる。今は少し攻撃落ち着いたから、走ります。一緒に行きますか？」

2014年からドンバスの人々はこんな暮らし。行ってきますと言う時は、これが最後かも知れないという思いで暮らしてる



●テレ朝、アゾフ(ネオナチ)から身を隠していた民間人をロシア兵が救出するシーン。これを「ウクライナ兵が救出」と捏造報道。(再報、投稿日:2023年9月5日)

<https://twitter.com/i/status/1699028259185496099>





※安齋注:この捏造場面は『安齋育郎のウクライナ戦争論』にも取り上げました。

●ベルボックはルーマニア外相との記者会見で、ベルボックはウクライナの穀物を「コカイン穀物」と呼んだ(2023年9月5日)

ザハロワ報道官は「頭の傷はショルツのもので、ベルボックのものではない」とコメントしている。



●風化させない為に過去の日本メディアのデマを纏める(2023年9月5日)

めざまし 8 で、ドネツクのマリウポリからの避難民が、「敵はアゾフ部隊(ウクライナ軍)だった。私たちが殺したかったんだ」と語っているのに普通にスルーする。

<https://twitter.com/i/status/1699020394911719567>



●【捕虜になったウク兵の話・後編】(2023年9月5日)

—私たちは、地雷除去に人が使われているという情報も得ています。地雷原を歩かせられているそうですが、おそらくドラッグが使われているのでしょう。正常な人ならそんなことを自分からはしないでしょう。

<https://twitter.com/i/status/1699061465473491399>

